

入選

横断歩道で生まれる優しさ

鹿児島県 帖佐中学校 3年 川上 夏穂

毎日多くの人たちが横断歩道を利用していることでしょう。歩行者として、自転車に乗って、あるいは車に乗って。

そんなとき、なにか感じたことはありませんか。気づいたことはありませんか。

私は、横断歩道を利用する上で、横断歩道はたくさんの「やさしさを生む場、やさしさが生まれる場」なのではないかということに気がつきました。

小学生の弟と二人で横断歩道を渡ったときのことです。もちろん信号は青。安全を確認して横断歩道を渡り始めます。そのとき、左折しようとした一台の車が、私たちが渡り終えるまで止まってくれたことに気づきました。二人で急ぎ足で渡り終えた直後、弟がなにやら立ち止まったのです。振り返ってみると、止まってくれた車の運転手の方に、深々とお辞儀をしている弟の姿が目に入りました。私もつられて頭を下げ、運転手の方の顔を見ました。すると、笑顔で会釈をしてくださいました。私も自然と笑みがこぼれたのを覚えています。弟もうれしそうでした。弟に、

「どうしてわざわざ頭を下げたの。」

と聞いたところ、

「だって、わざわざ止まってくれたじゃん。」

と、あたりまえだというように答えてくれました。本当にその通りです。わざわざ手間をとってくれたことに、感謝しただけ。思い出せば、私自身も小学生の頃は同じようなことをしていたはずですが、でも、中学生になって、

「まわりがみんなしないんだし・・・。」

「歩行者優先なんだからあたりまえ。」

というように何かと理由をつけ、横断歩道で止まってくくださった方に対しても、お辞儀をしないほうがあたりまえになってしまっていました。たしかに、横断歩道は歩行者が優先です。車が止まるというのもあたりまえなのかもしれません。そんな車に、運転手の方に感謝を込めてお辞儀をする。そして、車も、運転手の方も笑顔で返礼してくださる。とても小さなことだけれど、そこに多くのやさしさが生まれているように私は感じました。

逆に、運転手側の方が、長距離運転で疲れているとき、お辞儀をしてくれた小さな子のおかげで元気になれたという話も耳にしたことがあります。

やはり、横断歩道は「やさしさを生む場、やさしさが生まれる場」なのです。そこで生まれたやさしさが街全体に、そして、あちこちに、あらゆるところに、広がっていけばいいなと思います。

あなたも、まずは横断歩道でやさしさを生み出してみませんか。